



編集・発行
県南教育事務所



「泉崎村らしい教育に」 泉崎村教育委員会教育長 鈴木 一正

泉崎村では、平成26年度に第5次泉崎村総合振興計画を策定し、10年後の村の将来像として「心豊かで元気あふれる村」を掲げました。教育委員会では、家庭を教育の原点とし、地域・学校・家庭が一体となって社会全体で培うものという基本理念に基づき村民手作りの教育に取り組んできました。変化の激しい環境を踏まえ国が示した第3期教育振興計画に基づいて質の高い教育を実現できるよう、後期5年間の教育施策に以下の3つの柱を掲げました。

- 1 地域で育む
- 2 夢を実現する
- 3 生涯をいきいき生きる

第1の地域で育む視点では、地域住民と学校と家庭の連携を基盤にします。これまで学校の教育活動支援、登下校の安全見守り、放課後子ども教室での学習生活支援等の環境が整ってきました。4月からのコミュニティ・スクール、地域学校協働活動の推進によりこの動きを一層加速化させる計画です。

第2の夢を実現する視点では、大人も子どもも夢を持ち実現する確かな力を育みます。心の教育として道徳教育の充実のため全村の学校で研修を進めてきました。その一端を過日の道徳推進校研修会（泉崎中）で公開しま

した。学習支援では、土曜学習ブチスクール、放課後学習会、数学・漢字・英語検定料全額補助、小学校への村講師による少人数指導等を通して夢を実現する力を育ててきました。今後、プログラミング教育の推進、GIGAスクール構想によるICT環境整備、個別最適化された学習が実現できる環境を整備します。

第3の生涯をいきいき生きる視点では、学校教育と共に生涯学び続ける環境（生涯学習）の整備を進めています。余暇の有効活用とスキルアップを図り、人生100年時代を豊かに生きる環境整備を進めます。また、子どもから大人まですべての年代の村民が年代を超えて運動や交流できる環境を整備し、健康維持はもちろん地域の人と人のネットワークづくりを進めています。

本村は、人口6600人余り、いずれは、児童数が減少傾向に転じることが予想されます。前述した3つの柱に基づいた施策を進めることは本村にとって先を見通した先行投資です。近隣の市町村、そして全国でも将来社会を見据えた先進的な取組が進められています。本村教育委員会では、教育をめぐる情勢を的確に把握し、迅速に取り組むことを基本とし、未来をたくましく生きるための教育環境づくりを進めていきます。

夢と希望を育む県南の教育の推進 ～学校教育課 令和元年（平成31年）度事業の成果～

「道徳教育の充実と 教育相談体制の整備」

11月20日（火）に道徳教育地区別推進協議会が泉崎村立泉崎中学校で行われました。宇都宮大学大学院の和井内良樹准教授を迎え、「主体的・対話的で深い学びをするための授業実践」や「一人一人を認め、励ますための評価」について研修を深めることができました。いじめやLGBT等の人権問題も含め、今後も子どもたちの道徳性の育成が図られるように「道徳の礎」や「道徳のとびら」、「学校教育課通信」等で道徳教育について情報提供をしていきたいと考えています。

「教育相談体制の整備」においては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用が図られ、不登校やいじめ、問題行動等への対応が行われてきました。対応件数の増加と共に、教員とのコンサルテーションの重要性が増しています。学校とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが互いの見立てを共有し、有効な手立ての検討が図られるよう研修の充実にも努めます。

また、県南域内だけでなく全県的に不登校が生徒指導の大きな課題となっただけでなく、生徒指導訪問では、各校の工夫した取組を聞かせていただくことができました。不登校の解消や未然防止に向けて、不登校児童生徒への学習支援、児童生徒や保護者との思いの共有、ケース会議等の組織的な取組等が大切であると考えます。

「学びのスタンダード」から 「〇〇学校スタンダード」へ

県の「学びのスタンダード」推進事業は、今年度で3年間一区切りの最終年度を迎え、一定の成果を得ました。特に、みさか小学校、白河第二中学校、塙小学校、塙中学校の各パイロット校では、「授業スタンダード」の重点化、焦点化、自校化を図り、学習過程の可視化、子どもたちの考え・話し合いをつなぎ・深めるコーディネート工夫、まとめ・振り返りの在り方などについて研究・実践が進められました。また、「家庭学習スタンダード」の活用においては、自己マネジメント力育成の観点から、基本的生活習慣・学習習慣の確立、家庭学習に取り組む内容や計画を自己決定する力の育成、授業での学習内容に広がりや深まりを持たせると共に家庭学習に有感を持たせるために授業とのつながりを工夫する等の実践がありました。パイロット校の他にも多くの小中学校から同様の視点を持った取組が報告されています。「学びのスタンダード」事業は、それぞれの学校の実態に応じ、独自の工夫を加えながら取り組まれたことにより、各学校のスタンダードとしての発展型を生み出したといえます。その中で、教師の学び合いの意識・姿勢も授業力向上の上での基盤であると確認できたと多くの声が聞かれました。「学びのスタンダード」の自校化が図られ、「〇〇学校のスタンダード」として形成されてきたことが3年間の取組の成果であり、今後の研究の方向性も示しているのではないかと思います。

「健康課題解決に向けた基盤づくり」

全国体力・運動能力調査の結果、下の表の通り合計得点で小学5年女子、中学2年男女が全国・県平均を上回ることができました。しかし、長座体前屈だけは、どの学年も、全国平均を下回りました。また、肥満傾向児出現率についても、小学女子、中学男女について改善が見られました。特に軽度肥満については、小・中男女すべてで出現率が低下し、肥満対応ガイドラインを活用しながら、個別指導を行っている成果が現れています。

全国体力・運動能力調査 合計得点の比較			長座体前屈 (cm)			肥満傾向児出現率		
	小学5年男子	小学5年女子	県南	小学5年男子	小学5年女子	前年度との比較	出現率	
県南合計得点	53.3	57.3	県南	31.60	35.30			
全国得点・県南比較	53.6 ▲0.3	55.6 ▲1.7	全国・県南比較	33.2 ▲1.6	37.6 ▲2.3	小学男子	11.6	
県得点・県南比較	53.0 ▲0.3	56.2 ▲1.1	県・県南比較	32.5 ▲0.9	36.6 ▲1.3	(前年比)	0.2	
前年度県南得点比較	54.5 ▲1.2	57.5 ▲0.2	前年度県南比較	31.7 ▲0.1	36.1 ▲0.8	小学女子	9.8	
	中学2年男子	中学2年女子		小学5年男子	小学5年女子	(前年比)	▲0.1	
県南合計得点	41.7	50.8	県南	43.00	46.00	中学男子	11.5	
全国得点・県南比較	41.6 ▲0.1	50.0 ▲0.8	全国・県南比較	43.4 ▲0.4	46.3 ▲0.3	(前年比)	▲1.1	
県得点・県南比較	41.3 ▲0.4	50.1 ▲0.7	県・県南比較	42.6 ▲0.4	45.9 ▲0.1	中学女子	11.1	
前年度県南得点比較	42.3 ▲0.6	51.0 ▲0.2	前年度県南比較	43.7 ▲0.7	45.9 ▲0.1	(前年比)	▲0.4	

さて、昨年11月から始まった、「ふくしまっ子健康・体力マネジメントプラン」は、ご存じでしょうか？東京オリンピック・パラリンピックの基本コンセプトの一つ「全員が自己ベスト」は、一人一人が健康・体力面等の自己ベストを目指すことで、2020東京大会を契機としたレガシーを創り出していくというものです。これを機に、学校全体で健康課題解決に取り組む意識を高めていきましょう。

「特別支援教育の推進」

今年度も「切れ目のない支援体制整備事業」で相談支援・研修支援を行いました。学校や市町村教育委員会の相談・研修内容に応じ、特別支援学校の教員や特別支援教育センターの指導主事を派遣し、指導助言を行いました。昨年度と比べて、認定こども園・幼稚園からの相談依頼が増え、早期からの支援に対する意識の高まりを感じました。

また、今年度の「特別支援教育に関する調査」において、県南域内の小・中学校における「個別の教育支援計画」の作成率が、特別支援学級に在籍する児童生徒に関しては100%となりました。また、通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒に関しても昨年度に比べ、上昇しています。各学校で児童生徒一人一人に応じた支援を検討し、「個別の教育支援計画」の作成に取り組んだこと、様子を市町村教育委員会で作成し、学校と連携を図ったことなどが、この結果に繋がっていると思います。

これからも、「個別の教育支援計画」の活用や通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒に関する作成などの課題を改善できるように、幼稚園、小・中学校、高等学校、市町村教育委員会等と情報の共有を図るなど連携しながら取り組んでいきたいと思っています。



受賞おめでとうございます～令和元年度（平成31年度）教育・文化関係表彰～ (敬称略)

叙勲
 春の叙勲（瑞宝双光章）
 前中島村教育委員会教育長 佐藤 正敏
 （旭日双光章）
 元矢吹町教育委員会委員長 岩谷 和夫
 秋の叙勲（瑞宝双光章）
 元白河市教育委員会教育長 伊藤 渉

文部科学大臣表彰
 地方教育行政功労者表彰
 矢吹町教育委員会委員 藤井 義男
 社会教育功労者表彰
 白河市社会教育委員 今野登志子
 白河市立白河第三小学校教諭 江花 洋介
 白河市立みさか小学校教諭 鈴木恵美子
 優秀教職員表彰
 保健及び学校安全表彰 学校安全ボランティア
 矢吹町立三神小学校子ども見守り隊
 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰
 西郷村地域学校協働本部

県教育委員会表彰
 地方教育行政功労者表彰
 棚倉町教育委員会教育長 松本 市郎
 学校教育功労者表彰
 白河市立白河第二小学校長 佐久間芳雄
 白河市立みさか小学校長 武藤 誠
 社会教育功労者 西郷村社会教育委員 橋場八代子
 功績顕著な団体・施設 泉崎村中央公民館
 白河市立東北中学校 PTA

文化財保護功労者
 元矢吹町文化財保護審議会議長 藤田 正雄

教育・文化特別功績表彰
 優秀教職員表彰
 白河市立白河第一小学校 特設器楽クラブ 智
 白河市立みさか小学校教諭 荒井 伸也
 白河市立小野田小学校教諭 角田 真弓
 矢祭町立矢祭小学校教諭 戸井田 瞳

永年勤続教職員表彰
 小・中学校 27名
 県立学校 17名

教職員研究論文
 特選 個人 中島村立滑津小学校教諭 前林 伸也
 入選 団体 棚倉町立棚倉小学校

ふくしまっ子元気大賞 白河市立小野田小学校
 ふくしまっ子体力向上優秀校 白河市立白河中央中学校
 ふくしまっ子体力向上特別賞 白河市立東中学校
 食育推進優秀校表彰 優秀賞 矢吹町立三神小学校
 優良賞 白河市立白河中央中学校

ふくしまっ子ごはんコンテスト 学校賞
 西郷村立羽太小学校 白河市立五箇小学校
 塙町立笹原小学校 白河市立五箇中学校
 白河市立大信中学校 西郷村立川谷中学校

おなわとびコンテスト
 10～25人 中学部門 第1位 塙町立塙小学校 3年2組
 26人以上 低学年部門 第1位 塙町立塙小学校 1年1組
 高学年部門 第1位 塙町立塙小学校 6年1組

県学校給食会表彰
 学校給食功労者
 塙町立塙中学校（塙町学校給食センター）
 栄養教諭 上遠野朋子

県学校保健会表彰
 学校保健功労者
 棚倉町立棚倉中学校 学校医 和田 良仁
 矢祭町立矢祭小学校 学校医 木村 芳朗
 西郷村立熊倉小学校 学校歯科医 佐藤 演由
 矢祭町立矢祭小学校 学校歯科医 佐藤 洋一
 矢吹町立中畑小学校 養護教諭 鈴木多恵子
 矢吹町立矢吹小学校 養護教諭 石川久美子

県学校歯科保健優良校表彰
 【年度表彰】
 最優秀賞 西郷村立米小学校
 優秀賞 白河市立釜子小学校 西郷村立羽太小学校
 鮫川村立鮫川小学校 白河市立東中学校
 小・中学校 4校
 小・中学校 3校

努力賞
 奨励賞
 【継続表彰】
 特別表彰 西郷村立米小学校
 福島県学校緑化コンクール表彰
 学校林等活動の部 小学校部門 教育長賞 西郷村立熊倉小学校

社会に拓かれた教育課程（地域と学校の協働活動）

～地域連携担当教職員の任命と学校の体制づくり～

昨年2月に、県教委から出された「福島県地域学校活性化構想」では、地域が学校や子どもたちを支援するという従来の一方向の関係だけでなく、学校も地域に貢献していくことで、地域と学校が強固なパートナーシップを構築し、新学習指導要領のポイントとなる社会に開かれた教育課程を実施しながら、地域づくりと一体となった社会総がかりによる教育の実現を目指しています。

県南域内でも、今年度から学校側の窓口となる地域連携担当教職員を各学校で任命し、地域人材を活用した教育活動や学校支援活動を進めています。また、市町村や中学校区単位では、地域連携担当教職員の会議を持ち始めるところも出てきて、行政と学校との連携を深めながら、各学校での地域人材の活用状況や今後の課題などの情報を共有し、新たな体制を整備しています。県南教育事務所の社会教育主事も、この会議に同席させていただくこともあり、助言や支援を行って来ました。



<地域連携担当教職員会議（西郷村）>

次年度以降、地域と学校の協働活動がさらに推進できるよう、それぞれの立場での取組をお願いします。（県南域内の現状を踏まえた主なポイント）

- 【各学校】
 - この制度について教職員全員の理解と活用方法の周知
 - 持続可能な仕組みづくり（連携教職員一人だけでなく、組織的な体制づくり）
 - 連携教職員の役割の明確化（①プランナー、②コーディネーター、③アドバイザー）
 - ただし、②は他の教員と分担してチームで行い、管理職でないと対応できないものは任せる。
 - 各学校での連携の段階
 - ・小学校 →地域の方が来校して支援
 - ・中学校 →生徒が地域に出て貢献
 - ・高校 →キャリア教育の推進
 - PTAや地域への情報発信と情報収集
- 【行政】
 - 地域コーディネーターの配置（公民館職員も可）（規則等を作って、全体のイメージを持つ）
 - 中学校区や行政単位での会議や研修会の開催
 - 現状を把握し、学校や地域を支援（現場に向く）
 - 【教育事務所】
 - 県の手引き等による周知と学校や行政への支援（会議等に向いての説明や助言等）
 - 情報発信と学校訪問による現状把握
 - 県南地区の地域連携担当教職員等研修会の開催
 - ・令和2年6月8日（月） 13:30～ 白河合庁

小 学 校 紹 介

「子どもたちの学校自慢」

白河市立五箇小学校

本校は、自然豊かな環境と協力を惜しまない地域の方々に支えられ、子どもたちも教師も安心して楽しく学校生活を送っています。

子どもたちの学校自慢は、「元気いっぱいあいさつ」と「福島県で一番の書写の学校」です。

毎朝、昇降口や職員室・校長室前でとびきりのあいさつをして、一日をスタートさせています。見守り隊の方々にも感謝を込めてあいさつできるようになってきました。さらには、特色ある教育活動として書写指導に力を入れています。書写の学習では、「背筋を伸ばして」「筆や鉛筆を正しく持って」「課題をしっかりと見て」の基本を大切に、校内のたなばた展・書きぞめ展も実施し書写力を高めています。今年度も県たなばた展と書きぞめ展で最高学校賞をいただきました。

子どもたちは、「がんばればできる」という大きな自信となりました。これは、児童も教師も保護者も、心一つに取り組んでいる成果だと感謝しています。



「和太鼓」と「パプリカ」

埴町立笹原小学校

笹原小児童、笹原幼稚園児は、『パプリカ』を全員が歌って踊れます。「笹原フェスティバル」では、赤・黄・緑の衣装で、年少児から6年生まで102名全員が一体となって『パプリカ』を披露しました。保護者から「圧巻の出来映えでした」との感想をいただきました。

また、本校児童は全員が『和太鼓』の演奏ができるようになって卒業していきます。

5・6年生は、運動会や郡の音楽祭、笹原フェスティバルで【笹原川上太鼓】を披露します。今年度の10月には、白河市文化交流館「コミネス」で行われた『県南地方和太鼓の饗宴』に参加し、多くの方々に演奏を見ていただく機会を得ました。

3・4年生は、毎年の埴町産業祭で【笹原弘法太鼓】を披露します。12月には、『棚倉警察署出動式』にも招待され躍動してきました。

2月には、教職員の実技研修も行います。笹原小に赴任した教員は、全員が『和太鼓』の演奏ができることを目指して…。



本年度を振り返って



「地域連携を生かした学び」

福島県立埴工業高校
校長 高橋 文彦

本校は、各学年電子科と機械科の2クラスずつ、全校生徒130名、高校としては小規模校となります。本年度は、埴町との中高連携事業に加えて、矢祭小・中学校との連携事業も行いました。内容は本校での小・中学生の体験授業（工業の実習）で、本校生徒（当該校出身生徒）が指導しました。これにより、本校生徒にとっても小・中学生にとっても、相互に効果的な教育の実践することができました。今後も地域に拓かれた高校として、小規模校を生かし、小学校・中学校とも連携を深めた教育の実践を図っていききたいと思います。



「時々の初心」

矢吹町立矢吹小学校
教頭 佐藤 克浩

長く担任をしてきたこともあり、知識も経験も十分に積んできたと思いついていた自分が、昨年春教頭職に就かせていただくことになりました。4月がスタートすると、毎日が驚きと発見の連続です。息つく間もない日々、それまでの慢心を戒められた気分となりましたが、無我夢中で仕事をする自分に初々しさを感じたのも事実でした。「時々の初心忘るべからず」と言う世阿弥の言葉が思い起こされます。校長先生をはじめ、諸先生方から多大な支援をいただきながら、日々、新鮮な気分を味わえることに深く感謝し、前へ進んでいく所存です。



「一年間を振り返って」

福島県立西郷支援学校
教諭 佐藤 淳子

4月に特別支援学校の教諭として新採用になり、学びの多い充実した1年となりました。初任者研修を通して、校務の進め方や授業づくり等、教師としての基礎を学ぶことができたことはもちろんですが、一番は子どもから多くのことを学んだように感じます。毎日、子どもたちとじっくり関わり、一緒に笑い、時には一緒に悩みました。その度に、子どもたちと共に一つ一つ、自分自身も学び、成長できたように思います。これからも、子どもたちと向き合いながら、子どもたちのために学び続ける教員を目指してまいります。



「すばらしき伝統・校歌」

中島村立中島中学校
校長 渡邊 泰昌

教諭時代に勤務させていただいていたことがあり、今回は2回目の勤務になります。今でも、校内の駐輪場には、生徒のヘルメットが自転車の荷台にくくりつけられ、整然と並んでいる学校です。諸先輩の校長先生方や先生方が残した伝統が、現在も脈々と残っており、その中で勤務できることに大変感謝しています。校歌について調べてわかったことがあります。作曲者である井上武士先生は、文部省唱歌「うみ」や童謡の「チューリップ」を作曲した方でした。これを学校全体に周知し、誇りをもって生徒や先生方とともに、校歌を歌い続けたいと思います。



「出会いを経験に」

鮫川村立鮫川小学校
教頭 菅 伸一

4月に新任教頭として、新鮮な気持ちと責任の重さを感じながら鮫川小学校に赴任しました。教育実習以来の小学校勤務ということもあり、校長先生をはじめとして先生方からたくさんのことを教えてもらいました。今まで以上にたくさんの方と会う機会が増えたことで、改めて自分自身の言葉遣いや表情、態度などを見つめ直すことができた1年間でした。今年度の先生方や保護者、地域の方、そして子どもたちとの出会いは、自分の経験にとってもプラスになりました。今後も、たくさんの方との出会いを大切に、さらに努力してまいります。



「教諭となり早1年」

福島県立修明高等学校
教諭 伊藤 芳樹

教諭となり早1年、初任者なれども同じ教諭として、先輩の先生方に追いつこうと今もがいています。苦悩と失敗が続く中、業務を次々とこなす先輩方への尊敬の念が強まる一方、自身の能力への不安が募るのも事実です。それでも折に触れて、生徒たちの屈託のない笑顔と知らぬ間の成長を垣間見たとき、この仕事を本当に誇りに思います。生徒への最適な働きかけは、実態や時代に左右される上、成果がすぐに現れないことが多いと思います。それでも彼らのさらなる成長を願いながら、働きかけの不易と流行を見極めつつ、今後も真摯に向き合っていきたいと思います。